



いろとり

埼玉大会

⑤ 彩の国 ⑥ い 今こそ助けあい ⑦ た 学び合おう

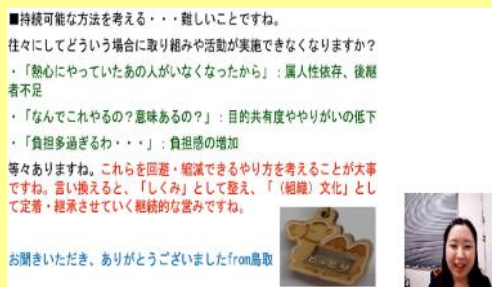
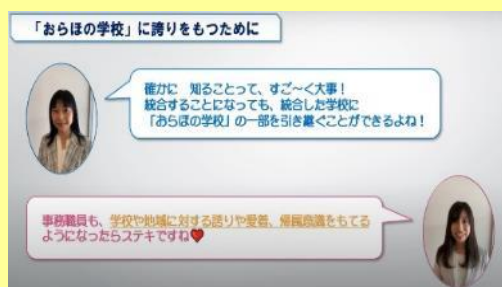
第1分科会（山形支部）提案

未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務
— 持続可能な、地域と学校をつなぐ人になる —

山形支部からは「未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務 — 持続可能な、地域と学校をつなぐ人になる —」をテーマに提案がありました。山形支部では2011年に研究ビジョンとして「やまがた花笠プラン」を定め、学校事務職員の実践・研究の方向性を示してきました。その上でビジョンを更に時代の変化に即したものにすべく、2019年に改定を行い、現在は「やまがた花笠プラン」Revision 2019として実践・研究を進めています。

今回、現状の課題を把握することを目的として、地域協働に関する意識調査を行いました。その結果を分析し、具体例として二つの実践を紹介しながら、事務職員が地域との「かかわり」を意識し、学校と地域を「つなぐ」という橋渡しの役割を果たすことで、地域住民からも「おらほの学校」と愛着を感じパートナーとなってもらう、未来に向かうための「持続可能な」取組について発表がありました。

最後に山形支部にかかわって3年になる川口有美子氏から今回の提案を受けて「ブリッジ・マネジメント」という言葉を踏まえながら御助言をいただきました。



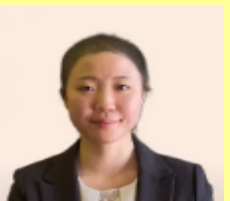
第2分科会（栃木支部）提案

子どもの学びの充実を図る学校事務
— 「実践」から見た学校経営参画 —

栃木支部ではこれまで「子どもの学びの充実を図る学校事務」という研究主題に基づき、「中期研究計画」と「とちぎ学校事務ビジョン」の二つの柱を基に活動を進めてきました。「とちぎ学校事務ビジョン」では、学校経営参画を事務職員の中心的な仕事とすることが示されています。しかし、学校経営ビジョン実現への取組は広がってきているものの、学校経営ビジョン策定への参画には消極的であるという現状があります。そこで、事務職員はどのように経営参画を果たしていくのか。その「具体化」と「実践化」を今回のテーマとした発表がありました。

実践事例の分析・検証の結果、「ビジョン実現への参画」から「策定への参画」を段階的に実現するために、「マネジメント・共同学校事務室・熟議」の三つの不可欠な要素の提案がありました。また、そのプロセスに生じる様々な情報を分析し、提供していく「情報マネジメント」の展開が重要であるとし、さらには、学校経営の一つとして「カリキュラムマネジメント」への参画も構想されています。

提案を受けて助言者の風岡治氏からは、「教育活動にイニシアチブを発揮し得る人材として組織や人をつなぐ役割を担い、変化に立ち向かう意思や知恵を持ち実践を繰り返していったほしい。」と御期待の言葉をいただきました。また近藤秀人氏からは、「学校運営チームの一員である学校事務職員には、校長を学校経営面から補佐できる高度な専門性をもつ必要があり、経営参画研究の更なる深化を期待したい。」とお話をいただきました。

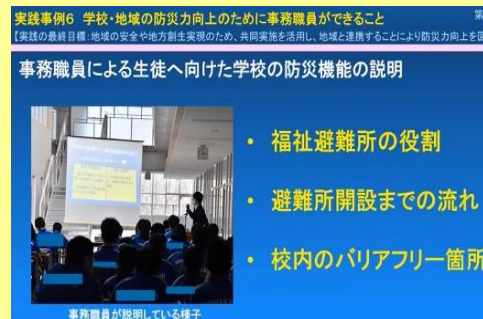
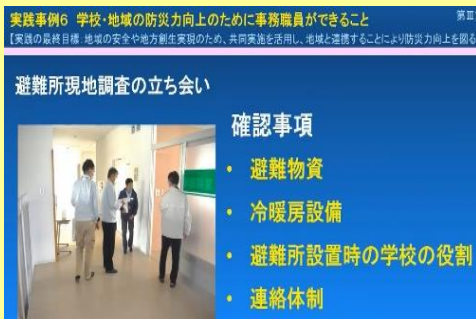


第3分科会（群馬支部）提案

学校と地域がとにもつくる子どもたちの未来
ーやってみよう！地域協働のファーストステップー

群馬支部では、事務職員の地域との連携・協働にかかわる業務の定着に向けて研究を行ってきました。会員の意識調査の結果、地域との連携・協働を意識する会員が多い一方、必要性や取り組み方が分からず積極的にかかわれていない状況があり、意識改革と取組へのかかわり方が課題であることが分かりました。

群馬支部からは、まず一歩を踏み出しスキルアップするための「連携・協働指標」が提案されました。地域との連携・協働について「理解」する、校内外へ情報「発信」する、地域とともに学校課題の解決に向けて「連携・協働」するという3ステップに沿って実践を積み重ねていきます。また今後、事務職員の知識の底上げや組織的な取組を行っていくために、群事研のバックアップ、研修体系や業務体系の見直し、当事者意識の向上、共同学校事務室による業務の見直しが必要だと示されました。既存の仕組みを理解し、組み合わせることでより大きな効果を上げるという考え方をもち、小さなことから積極的に行動を起こしていくことで業務の定着を図ることが出来ます。まずは事務職員が「子どもたちのために」、という視点で思い切ってファーストステップを踏み出すことが、連携・協働することへとつながり、より良い未来へつながる、と発表がありました。



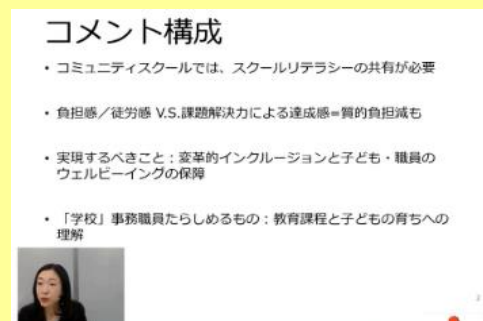
第4分科会（千葉支部）提案

みんなの願いをカタチに
ー総合的判断力をもった事務職員の戦略的な情報発信ー

地域協働を推進するためには、お互いの思いを共有し、学校・家庭・地域が、子どもを育てる当事者であるという意識を醸成していくことが重要になります。共に学びや育ちを考え、確実に「カタチ」（実現）にしていくためには、今まで以上に情報のマネジメントが必要であり、事務職員が戦略的に情報を発信していくことが重要ではないかと考え、仮説を設定しました。

仮説の検証として「戦略的な情報発信をする事務職員の姿」について、学校HPを活用し情報発信を行っている事務職員へのインタビューによる紹介がありました。HP作成に際し、学校をもっと知ってほしい、子どもたちの活動を見てほしいという願いから、様々な視点での情報を収集し、総合的に判断し発信するなかで、保護者や地域、教職員、子どもたちからの反応や要望を受け（受信）、さらにコミュニケーションを深めることで、双方向の情報発信を促すことができた、という事例でした。また、共同実施の取組として、職場体験の事業所情報や人材リスト、財務に関する情報を地域のデータベースとして可視化し経営資源の一覧に発展させることで、地域全体を俯瞰してみることができ、事務機能の強化につながるとともに地域協働における持続可能な取組となるのではないかという提案がありました。

最後に、助言者の貞広斎子氏から「豊かな学びと育ちを保障する『学校』事務職員」という題目で「スクールリテラシーの共有では、学校の当たり前と地域の当たり前は必ずしも一致しない場合があり、学校が大事にしていることを地域の方へ翻訳して伝える必要がある」「その重要な担い手が情報基地・地域への窓口である事務職員であるということを確認していただきたい」と、御助言をいただきました。



さいたまめちしき 秩父雲海(秩父市)《埼玉の名所①》

第5分科会（山梨支部）提案

やってみるじゃん！自ら発信する学校経営参画
—信頼される学校事務 スクールソムリエをめざして—

山梨支部では、「ワインの国 やまなし」にちなみ、質の高い学校事務を最適な状況で提供する「スクールソムリエ」を目指す事務職員像に掲げています。

提案では、一人一人が「信頼される学校事務 スクールソムリエ」を目指すのに必要な能力として、組織力を高める「学校経営マネジメント」、教育活動をつなぐ「学校財務マネジメント」、必要な情報を的確に判断し提供する「学校情報マネジメント」、家庭・地域・学校・行政の思いをつなぎ学校づくりを推進する「学校ネットワークマネジメント」の四つのマネジメントを定義しました。

マネジメントの意識をもつことで、日々の仕事において小さなきっかけを見逃さず、その気付いたことに対して事務職員として何かできることはないか考えるようになります。まずは第一歩を踏み出し、ミッションである子どもの豊かな育ちを支援する、経営的視点をもった自ら発信する学校経営について発表がありました。



第6分科会（埼玉支部）提案

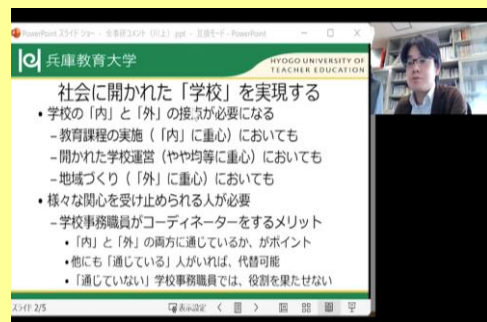
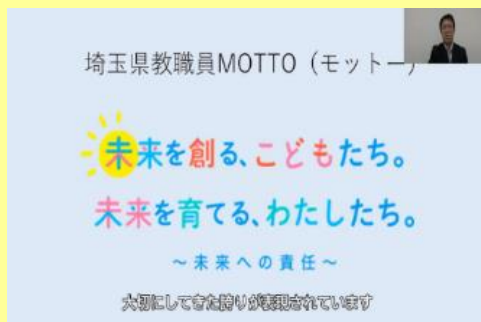
未来を創る子どもたちのために 事務職員が果たす役割
—「総務」「財務」の面から学校と地域をつなぐ—

埼玉支部では「埼玉の学校事務グランドデザイン～彩の国コバトンプラン～」において、目指す事務職員像を「学校の内外をつなぎ広げ、学校力を高める事務職員」と定めています。

将来の変化を予測する事が困難な時代を生きる子どもたちが未来を切り拓く力を身に付けるためには、学校だけでなく、地域とともに社会全体で子どもたちを育てていく必要があります。また、地域とのつながりの希薄化解消のため、学校を核とした地域づくりが求められています。学校と地域が同じ目標に向かい、より円滑・効果的に協働できるよう事務職員が役割を果たすことは、目指す事務職員の姿に合致すると考えます。

埼玉支部からは、総務・財務等に通じる事務職員が、地域とともにある学校づくりにおいて、様々な役割を担うことによって、学校と地域をつなぐための方法について提案がありました。また、現在の研修制度の在り方を考えることによって、実際に役割を果たせるようになるまでの道筋を探り、今後の事務職員として必要な力量と知識を身に付けていくことが重要であると提案がありました。

最後に助言者の川上泰彦氏から、「『現在地』と『ありたい姿』の接続」について、お話をいただきました。



全事研コーナー

全事研コーナーでは短い時間の中で、ギュッと情報を詰め込んだ動画が配信されています。全事研の紹介動画では、全事研の組織やロゴマークの由来、グランドデザイン、主な活動についての紹介がありました。また、全事研Webのデータベースも紹介されています。

2月7日（月）には、実践事例データベースや調査結果データベースの更新を予定しています。さらに、大会期間限定の公開で、令和2年度全事研セミナーの講義や全国大会愛媛大会に向けた戦略領域研修会の見逃し動画配信を行っています。この機会に是非御覧ください。

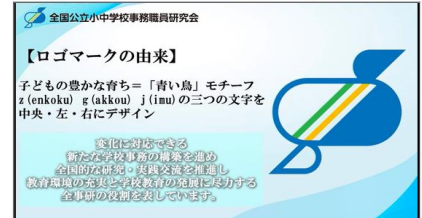
第53回全国公立小中学校事務職員研究会（埼玉大会）

全事研コーナー

本会の取り組みや、全事研Webに掲載している活動成果などをご案内させていただきます。

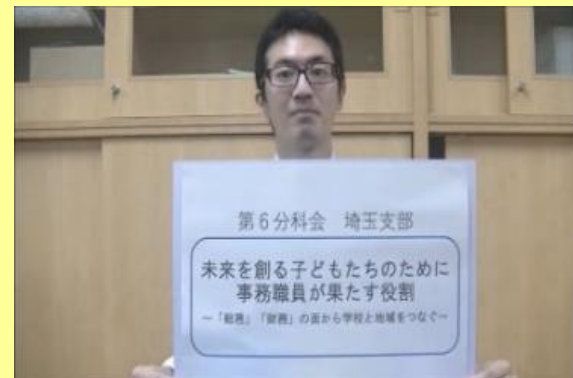
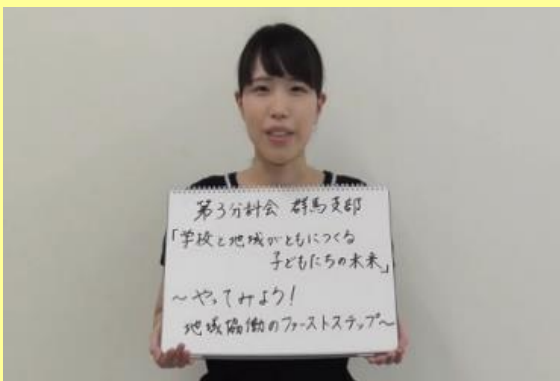
・全国公立小中学校事務職員研究会の紹介

全事研の組織やロゴマークの由来、主な活動について動画で紹介しています。



大会アルバム

PR動画より。山形、栃木支部
群馬、千葉支部
山梨、埼玉支部



さいたまめちしき 三県境（加須市）《埼玉の名所③》

加須市、栃木市、群馬県板倉町の県境が交わっていて、三步で三県を回ることができます。三県境は日本全国ほかにもありますが、山や川の中にある所が多く、平地にあるのは珍しいそうです。ちなみに、オンライン開催の今大会は、一步も歩かずに6県の動画を視聴することができます。皆様、是非御覧ください。